



慶應義塾大学ビジネス・スクール

中部シリンダー有限会社

ひとつの新聞記事

昭和54年（1979年）12月26日付の朝日新聞（夕刊）に、次のような記事が掲載された。 10

『定年なし実現－シーケーディＯＢ設立－ 定年のない会社、働くまで働く会社に勤めたい、というのはサラリーマンの夢だろう。ところがその夢が現実となった会社がこの7月誕生した。自動包装機械、省力化機械などの大手であるシーケーディ（本社・小牧市、吉田国夫社長）の定年退職者が作った「中部シリンダー有限会社」（愛知県丹羽郡扶桑町）がそれ。資本金200万円、従業員六人の町工場だが、「定年退職者の能力を活用する道を探したい」というシーケーディのモデル工場である。創業から半年。まだ成果を問う時期ではないが、高齢化社会に向けて放たれた一本の矢であることは確かだ（中略）。 15

構想が生まれたのは昨年秋。折から、工作機械業界では省力化機械の需要が伸びはじめ、同社の空気圧シリンダーも、生産が注文に追いつかないほどだった。しかし、生産設備を増やすには、金もかかる。おまけに、いまの生産設備からあふれ出した分を作るのが目的だから、効率の悪い投資だ。さらに、人を雇う必要もある。「それよりも」とシーケーディの幹部は考えた。「定年退職者に協力工場を作ってもらい、あふれ出した分を引き受けてもらえば……」。定年後も働く場所がある、というのは、従業員にとっては大きな励みになるだろう（中略）。 25

シリンダーの製作は工程数が少なく、どんな機械でも使いこなす技術を持ったＯＢには、うってつけの仕事であった。また、「定年になって、また会社員でも…」と考えて、自分たちの会社を作ってもらうことにした。だから定年もない。もちろんシーケーディーがお手伝いはする。こうして、「中部シリンダー」の創業者を募り始めたのが、今年の春。同時に工場用地も探した。間もなく扶桑町に貸工場が見つかった。定年退職者のうち、二人が新会社への参加を希望、各々が百万円ずつ出資することになった（中略）。約5ヶ月を経過した現在、社員は経営者を含めて定年退職者が四人。シーケーディからの出向者が 30

このケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科（ビジネス・スクール）渡辺直登助教授がクラス討議の資料として作成したものであり、経営管理の巧拙を例示するものではない。
(1997年11月作成)